

名前 【 】

自動運転の田植え機開発

クボタは15日、自動運転機能を搭載した田植え機を開発し今年10月に発売すると発表した。一般的に田植えは操縦者と苗の補給などをする補助者が対になって作業をするが、自動運転により作業の省人化が可能になる。クボタによると自動運転の田植え機は業界初。クボタは既に自動運転機能搭載のトラクターやコンバインを製品化している。今回の田植え機で主要な自動運転農機が出そろった。自動化を進めることで農作業の効率

クボタが業界初、10月発売



クボタが発売する自動運転の田植え機。15日、京都市

化だけでなく農業の担い手不足の解消にもつなげたい考えだ。京都市で開かれた展示会でお披

露目した「アグリロボ田植機NW8SA」は、無人で直進や旋回をしながら田植え作業を行うことができる。衛星利用測位システム（GPS）が搭載されており、まずは有人で田んぼの外周を走らせると、農機が位置を記憶して田植え作業の走行経路を自動計算する。その後、監視者がリモコンで指示すると無人で作業を開始する仕組みだ。超音波ソナーを計8個装備し侵入者や障害物を検知すると自動で停止する機能も付けた。希望小売価格は687万5千円、さまざまなニーズに対応するため同時発売する有人仕様は632万5千円。

- ① クボタが開発し、今年10月に発売すると発表したものは何ですか。15字で答えましょう。

- ② 京都市でお披露目されたアグリロボ田植え機NW8SAに搭載されているものは何ですか。10字で答えましょう。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

- ③ 安全な走行や作業のためにどんな機能がつけられていますか。

[]

- ④ トラクターやコンバインや田植え機などの自動運転化を進めることで、どのようなことに役立てる考えですか。

[]